

2021年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

■2021年度報告書における意見・課題は新規課題か継続課題かを振り分け、担当している部門を明記した。新規の担当は、継続課題との関連と意見・課題の内容と部署の内容と部署の内容と部署の関連性から記載した。
 ■新規課題にはアンダーラインを引いて掲載した。

※1:2020年度の意見・課題への取り組み(年度末点検)をもとに、2021年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組みの進め方を記述。
 また、第1回学校関係者評価委員会に報告。

※2:中間点検は第2回学校関係者評価委員会に報告。

※3:年度末点検は2023年度第1回学校関係者評価委員会に報告。

大項目	中項目	2021年度報告書における意見・課題	区分	担当	意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3		
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法(1)学直しの教育プログラムの開発	○新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、卒業生、社会人、外国人を対象とする新規の教育事業が展開できなかった。今後の実施に期待したい	新規	校長	■本年度の経営企画室の課題として、今後の実施に向けた具体的な検討を進めることとしている。	■新たに離職者等再就職訓練(医療・調剤事務科3カ月コース)の1月生30名)を東京都から受託した。	■離職者等再就職訓練の「医療・調剤事務科」を東京都から受託し、1月から3月の3カ月間、受講生24名で開講した。また、求職者支援訓練「登録販売者養成科」(5月中旬から3カ月間)の開講に向けた申請準備を進めた。		
1 教育理念・目的・育成人材像	(2)育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○職業実践教育を更に充実させるためにも、引き続き関連業界との連携の強化に取り組んでほしい。	継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程編成委員会、実習先病院や卒業生にご提供いただく情報とご意見を学科運営に反映させ、専門分野の人材育成を推進する。	■第1回学校関係者委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会における委員からのご意見を、次年度カリキュラム作成を始める。また、医療機関および企業の人事育成に兼任講師を依頼し、社会人化教育を推進している。 ■実習先病院を訪問し、卒業生の動向や求められる人材に関する情報、医療現場の現状の把握、共有への取り組みを図っている。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生や兼任講師からの情報や意見を、学生指導に反映させるよう務めた。 ■2023年度教員配置に際し、医療機関および企業の実務者に依頼をした。 ■実習先病院訪問で得た情報を関連部署間で共有し、引き続き職業観の醸成を図るよう、取り組みを進めていく。		
			新規	医療事務科	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程編成委員会、実習先病院や卒業生にご提供いただく情報とご意見を学科運営に反映させ、専門分野の人材育成を推進する。	■第1回学校関係者委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会における委員からのご意見を、次年度カリキュラム作成を始める。また、医療機関および企業の人事育成に兼任講師を依頼し、社会人化教育を推進している。 ■後期から始まるデュアル実習先病院を訪問し、業界の動向や求められる人材に関する情報、医療現場の現状の把握、共有への取り組みを図っている。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生や兼任講師からの情報や意見を、学生指導に反映させるよう務めた。 ■2023年度教員配置に際し、医療機関および企業の実務者に依頼をした。 ■デュアル実習先の医療機関訪問で得た情報を関連部署間で共有し、引き続き職業観の醸成を図るよう、取り組みを進めていく。		
			継続	診療情報管理専攻科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	■診療情報管理士実習は、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により期間が1週間となつたところもあったが、2週間行えた学生が多数であった。5月～11月にかけて各医療機関において実施した。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生の医療従事者による講演、報告会などを通して、また兼任教員の先生方からも情報を収集し、医療業界との連携を図った。 ■実習先病院への訪問もできる限り行い、また電話やメールを通して情報を得ることができた。		
			継続	医療事務IT科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	■特別講演等は対面、またはオンライン配信により実施した。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生の医療従事者による講演、報告会などを通して、また兼任教員の先生方からも情報を収集し、医療業界との連携を図った。 ■実習先病院への訪問もできる限り行い、また電話やメールを通して情報を得ることができた。		
			継続	診療情報管理科	■病院実習、特別講演、採用活動等あらゆる行事を通して、また兼任講師や専門分野で就業する卒業生等からの情報収集に努め、医療業界の動向を知り、医療機関等が求めるニーズを把握し、それに見合った人材の育成を目指す。	■特別講演等は対面、またはオンライン配信により実施した。	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、および卒業生の医療従事者による講演、報告会などを通して、また兼任教員の先生方からも情報を収集し、医療業界との連携を図った。 ■実習先病院への訪問もできる限り行い、また電話やメールを通して情報を得ることができた。		
			継続	くすり・調剤事務科	■学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、薬店実習、校内企業説明会などの行事や兼任講師、専門分野で就業している卒業生などと情報を共有し、専門分野において求められる人材を育成する。	■関連企業とは継続的に、業界動向、求人状況、カリキュラム、実習などについて打ち合わせをおこなっている。 ■株式会社トモズによるオンライン薬店実習を4日間実施した。(8月1日～3日、5日)	■関連企業と継続して対面もしくはオンラインなどにより打ち合わせを実施し、専門分野に求められる人材育成に取り組んだ。今後も継続していく。		
			継続	介護福祉科	■臨地実習を通じた職業実践教育に加え、第一線で活躍されている方を迎えながら看護師養成に取り組んでいく。 ■区社協や地域包括支援センター等との連携を働きかけ、地域に入っていく力を養成する。	■臨地実習は当初の計画通りに実施されている。第一線で活躍されている方を迎えながらの特別講習を前期中に2度実施することができた。後期には12月に実施する予定になっている。卒業生を迎えての授業は、第1期卒業生に前期レギュラー科目を1科目ご担当いただき、次年度も継続してご出講いただけるように働きかけている。また、卒業生にご登壇いただく予定になっている。 ■地域(区社協)等との連携は、まだ進んでいない。	■臨地実習は2年生・1年生ともに計画通り実施された。コロナ感染症の影響は最小限に抑えることができた。(実習前後、実習中の発症なし)施設利用者発症による実習期間延長あり。特別授業は2年生を対象に12月に2回実施した。①日本における第一人者を講師としてお迎えし、スウェーデン発祥のケア技術「タクトリアルケア」講習を実施。②コカ-Cola/ムルタダチームの皆さんをお迎えし(丸紅ライフスタイル事業部2名参加)、AI見守りシステム「HltomeQ」を弊学科実習室に再現し、体験学習会を実施。 ■地域連携(区社協との連携協働)は実現できず。次年度、先ずは社協担当者へコンタクトを取り、地域社会における現状課題等のヒアリングを前期中に実施する。その後、弊学科のポリシー・計画等との親和性を精査した上で、協働について協議を始める。		
			継続	看護科	■実習協議会・教育課程編成委員会において外部意見を取り入れながら看護師養成に取り組んでいく。 ■臨地実習においては実習指導者会議において臨床現場と学生の学びを共有し看護の実践者の教育に取り組んでいく。	■教育課程編成委員会では、他校の学生の取り組みなどをご紹介いただき教育に取り組んでいる。その他の取り組みとして、本年度は重症心身障害3施設の見学の方を招き、職場の紹介や看護の説明を受ける機会を設けた。 ■実習指導者会議は2年ぶりに対面での会議を開催し、実習での状況を確認しあう事が出来た。また、臨床スタッフの勤務状況を共有し、教員体制においては実習指導教員を配置するなど協力しながら取り組んでいる。また、次年度のスケジュールにおいて変更・検討課題などを提案頂き準備にむけて取り組んでいる。	■現在の若者・学生の傾向を示し、学生に合わせた指導・教育方法を共有しながら教育効果を高める取り組みを行っている。新カリキュラムについては、今後の運営の方向性を示し、外部からの意見を参考にしながら今後の運営計画に活用する予定である。 ■特別な事情を抱えた学生の指導に関しては、看護部と連携し学生に不利益が生じないような体制を整えて取り組んだ。また、臨地での感染拡大においては、学生の安全および病院の方針を確認しながら取り組み、今後も継続する。また、新型コロナウイルス感染症での臨地実習の経験が少ない新人看護師の課題について、情報共有し、学生の臨地実習の重要性を共通認識し、取り組んでいる。		
			継続	校長	○外国人の支援や社会人の学直しは新型コロナウイルス感染症の影響により、刻々と変化しているが、引き続き社会のニーズを的確に捉え、先を見越して運営することが望まれる。	校長	■ウィズコロナの状況下での、再進学者・社会人・外国人留学生を対象とした職業人教育の在り方を再検討し、学生募集ルートの開拓や学ぶ者の視点に立った支援策等について、引き続き具体化を図りたい。	■次年度の外国人留学生の募集にはやや苦戦しているが、経営企画室を中心に日本語学校経由の募集ルート拡大に向けた活動を進めている。また、東京都の離職者等再就職訓練(医療・調剤事務科3カ月コース)の1月生30名)を受託した。	■国内の日本語学校募集ルートの開拓を継続した結果、一部のルートから、次年度入学予定の外国人留学生を若干名確保できた。また、1年制の医療事務科は、高校新卒者以外の入学者も、少数だが迎えることができた。東京都の離職者等再就職訓練(医療・調剤事務科3カ月コース)の1月生30名)は、1～3月に実施した。
			2 学校運営	1. 運営方針	○運営方針の周知の仕組みはしっかりとされている。常勤の教職員に対する浸透度の確認は工夫して進めている。兼任講師に向けた働きかけの工夫が引き続き求められる。	継続	校長	■兼任講師への働きかけについては、オンラインツールの有効活用を引き続き推進する。	■兼任講師を交えた年度初め(4月8日)の全教員会・学科会議について、昨年度と同様にオンラインで開催した。
3 教育活動	2. 教育方法・評価等(1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○現場で求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創工夫するように引き続き努めてほしい。 ○必要な知識と技術を身につける前提に、本人の勉強に対する動機づけや気持ちの持続性があると思われるため、その仕組みの検討も引き続き行ってほしい。 ○すぐに使うことのできる知識や技術も大切であるが、社会に出て継続して学んでいく力や、折れない心も身につける教育に引き続き取り組んでほしい。	継続	校長	■卒業後も職業人として自ら学びを継続していけるよう、学生が興味を示す科目やカリキュラムを開発し、学びの楽しさを体験する機会をより多く提供する。そのため、各学科・部署が協力し、引き続き具体的な推進を図りたい。	■主に医療事務分野の次年度生カリキュラムの策定にあたって、科目名や授業の内容について、学生目線・出願者目線で魅力や興味を感じられるよう、一部修正を加えた。	■学生に自ら進んで学びの世界に足を踏み入れてもらうために、まずは学びの楽しさと学びの達成感を味わってもらう機会を、アフターコロナの教育活動の各場面において、改めて積極的に組み入れた。		
			継続	医療秘書科	■学校関係者評価委員会及び医療事務分野教育課程編成委員会における意見をもとに、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。 ■専門知識・技能の習得とともに、初年次教育におけるキャリア教育・社会人化教育を推進する。	■学校関係者評価委員会及び医療事務分野教育課程編成委員会におけるご意見を伺い、2022年度入学生カリキュラムの見直しを行った。今回は広報室等の意見も参考に、学生が興味を持つよう、学生目線のわかりやすいカリキュラム策定を意識した。マナー教育、コミュニケーション力の強化は引き続き学科の特徴として位置づけている。 ■医療機関従事者による講演を視聴する機会を設け、将来のキャリアプラン・目標を設定し、その実現のために主体的に学ぶことができるよう指導している。	■2023年度カリキュラムは、学校関係者委員会および教育課程編成委員会でもったご意見を伺い、学生が現場で求められる社会人として成長できることを念頭に編成した。また情報科目については、広報室等の意見を反映させた。 ■1年次共通科目において、通産省のガイドラインに沿った社会人化教育に取り組み、学生のレジリエンス及びアサーティブスキルの強化を図るトレーニング実践を継続していく。		
			新規	医療事務科	■学校関係者評価委員会及び医療事務分野教育課程編成委員会における意見をもとに、学生を医療現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。 ■専門知識・技能の習得とともに、入学後早期よりキャリア教育・社会人化教育を推進する。	■学校関係者評価委員会及び医療事務分野教育課程編成委員会におけるご意見を伺い、2022年度入学生カリキュラムの見直しを行った。今回は広報室等の意見も参考に、学生が興味を持つよう、学生目線のわかりやすいカリキュラム策定を意識した。マナー教育、コミュニケーション力の強化は引き続き学科の特徴として位置づけている。 ■医療機関従事者による講演を視聴する機会を設け、将来のキャリアプラン・目標を設定し、その実現のために主体的に学ぶことができるよう指導している。	■2023年度カリキュラムは、初の学生受け入れとなった2022年度を振り返り、科目の配置について大幅に見直しした。また学校関係者委員会および教育課程編成委員会でもったご意見を伺い、学生が現場で求められる社会人として成長できることを念頭に編成した。 ■2023年度は2022年度に比べ既卒者の割合が増えるため、柔軟な対応を心がけている。		
			継続	診療情報管理専攻科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会のご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、2023年度入学生カリキュラムの見直しを行った。 ■授業や学校生活において、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の方からの情報を伝え、具体的な将来の目標を持ち、達成に向かって努力する指導を行っている。	■11月および3月に実施された学校関係者評価委員会において教育内容全体についての意見を伺った。また、2月の第2回医療事務分野教育課程編成委員会においては、カリキュラムをはじめとする現在の教育内容が医療現場で求められるものと合致しているか検証するために、より具体的な意見を伺った。今後はカリキュラム策定に活かしていく。 ■授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、自分の将来の目標を意識させ、自主的に粘り強く学ぶ姿勢を継続できる力を身につける指導を行っている。		
			継続	医療事務IT科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会のご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、2023年度入学生カリキュラムの見直しを行った。 ■授業や学校生活において、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の方からの情報を伝え、具体的な将来の目標を持ち、達成に向かって努力する指導を行っている。	■11月および3月に実施された学校関係者評価委員会において教育内容全体についての意見を伺った。また、2月の第2回医療事務分野教育課程編成委員会においては、カリキュラムをはじめとする現在の教育内容が医療現場で求められるものと合致しているか検証するために、より具体的な意見を伺った。今後はカリキュラム策定に活かしていく。 ■授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、自分の将来の目標を意識させ、自主的に粘り強く学ぶ姿勢を継続できる力を身につける指導を行っている。		
			継続	診療情報管理科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会のご意見を基に、現場で求められる人材を輩出できるよう常時カリキュラムの見直しを行い、より良い教育内容の提供を目指す。 ■単なる知識や技術の習得ではなく、自分の将来像を描き、何のために必要なかを意識させ、目標をもって自主的に学ぶ姿勢を継続できる力を身につけるよう指導する。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、2023年度入学生カリキュラムの見直しを行った。 ■授業や学校生活において、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の方からの情報を伝え、具体的な将来の目標を持ち、達成に向かって努力する指導を行っている。	■11月および3月に実施された学校関係者評価委員会において教育内容全体についての意見を伺った。また、2月の第2回医療事務分野教育課程編成委員会においては、カリキュラムをはじめとする現在の教育内容が医療現場で求められるものと合致しているか検証するために、より具体的な意見を伺った。今後はカリキュラム策定に活かしていく。 ■授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、自分の将来の目標を意識させ、自主的に粘り強く学ぶ姿勢を継続できる力を身につける指導を行っている。		
			継続	くすり・調剤事務科	■学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会における意見をもとに、学生を現場で求められる人材に育成できるよう、カリキュラムの見直しを随時行う。 ■授業内容と共に現場での経験談を交えて授業がどのように役立つか学生に伝えることや、授業1コマごとの目的を明確に伝えることで学習意欲を高める。	■7月に実施された第1回学校関係者評価委員会、第1回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会、企業訪問などを通じてお伺いしたご意見をもとに、2023年度入学生カリキュラムの見直しを行った。	■2月に第2回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会を実施した。前回の委員会でも出された意見をもとに次年度カリキュラムの検討を進める。		

	継続	介護福祉科	<p>■2022年度「情報と社会」という科目が開講される。ICTとAIの介護現場への導入が本格化している状況に適切に対応することを旨とする。</p> <p>■「TPC」「生涯学習」「最適解思考」「学びのコツ」に関する学習を行う。具体的には「解らないままにしない」「確かめる」ことを重点課題に設定し、これらの習慣化を目指して学習活動に組み込んでいく。</p>	<p>■後期から「情報と社会」がレギュラー科目として始まった。また、その他の授業においても積極的にPCを活用し、学生のスキルアップを目指している。</p> <p>■前期は、弊学科オリジナル科目「介護福祉ゼミ」を通して、「TPC」「生涯学習」「最適解思考」「学びのコツ」が「わからないままにしない」ことを繰り返し働きかけて学んできたことで、一部の学生には少しづつ浸透してきている(上記の文言が学生との会話の中で使われることがある)。1年生の間では入学時からしばらく見られた緊張した不安定な心の状態から、全体の2/3程の学生が落ち着いたように変わってきている。熱心に取り組む姿も見られる一方で個人差が表出している。</p>	<p>■「情報と社会」をはじめとし、「発達と老化の理解Ⅰ」「介護総合演習Ⅰ・Ⅱ」「コミュニケーション技術Ⅰ」など、いくつかの科目で積極的にPCを使った授業を実施している。その甲斐がありケーススタディ集作成はすべての学生が自律的にPCを用いてレポートを作成できるようになった。</p> <p>■「TPC」「最適解思考」「学びのコツ」について、1年生は入学時に比べ、授業中の課題に集中して取り組める時間が伸びている。また、ディプロマポリシーにつながる4つの達成課題の達成率自己評価(アンケート調査結果)は、課題①「共有できる」が87.6%、課題②「協働できる」が87.1%、課題③「創造できる」が93.8%、課題④「満足解思考できる」が87.5%となった。日本語能力がやや低い傾向にある留学生が伸び悩んでいるが、母国語を交えて「わかる」状態をつくることで留学生が本来持ち合っている学習能力が発揮され、学習課題を達成していく様子が見られた。2年生については、ケーススタディ発表会において、個々の2年間の学習成果が如実に表れていた。2年生全体の86%が課題を達成できていた。</p>
	継続	看護科	<p>■臨床実習再開により、実習の効果を臨床と連携し学びや課題を確認しながら取り組んでいく。</p> <p>■新カリキュラムのねらいを臨床の場にも発信し、卒業時の到達目標を共有しながら取り組んでいく。</p>	<p>■3年生は5月末から臨地での受け入れが可能となり臨床実習を再開した。代替実習では見えなかった課題が見え、看護実践における学習準備など指導強化が必要な点が明確となった。後期の指導課題として取り組んでいく。</p> <p>■実習指導者会では、新カリキュラムの概要を示し今後の方向性について説明する機会を得た。今後は、具体的な目標について更に共有しながら取り組んでいく。</p>	<p>■後期もコロナの感染拡大による実習の制限は継続し、特に3年次の最終実習である統合実習は全面学内へと変更された。臨床現場に直結する実習であり、影響が大きかった。しかし、臨床の協力により、看護師の業務を撮影し学習に活用できたことは、学生の学びに大きな影響を与えた。このことは臨地現場も学校教育への参加により、看護師に影響を与えたと同じ、今後も進めていきたい。</p> <p>■新カリキュラムの実習においては本年度は1年生が対象であるが、ねらいを共有しながら進めていけるように務めた。</p>
○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立つと言われている。引き続きの取り組みが望まれる。	継続	医療秘書科	<p>■人前でアサーティブな自己表現ができるよう、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム、学校・学科行事等でスキルの向上を図る。</p>	<p>■1年次前期の「ホスピタリティ」、2年次前期の「病院事務実習指導」、後期の「プレゼンテーション演習」「病棟コミュニケーション実務」(クラークコース)等、複数の教科において、発表形式の授業を取り入れている。</p> <p>■聞き手としても、多様な考えを受け止める柔軟性を養う指導を日頃から実践している。</p>	<p>■感染拡大防止に配慮した上で、徐々にグループワークを再開した。次年度もマスク着用の有無等、情勢を鑑みつつ発表の場を設けている。</p> <p>■2年次後期の「プレゼンテーション演習」では対面による発表形式、選択科目「医療PCインストラクション」においては学生が主体的にテーマを選び、オンデマンド教材を制作した。作品はGoogleクラスルームで共有し、評価のフィードバックを行った。</p>
	新規	医療事務科	<p>■人前でアサーティブな自己表現ができるよう、発表形式の授業やキャリアサポートプログラム、学校・学科行事等でスキルの向上を図る。</p>	<p>■1年次前期の「ホスピタリティ」、「病院事務実習指導」等、複数の教科において、発表形式の授業を取り入れている。</p> <p>■聞き手としても、多様な考えを受け止める柔軟性を養う指導を日頃から実践している。</p>	<p>■感染拡大防止に配慮した上で、徐々にグループワークを再開した。次年度もマスク着用の有無等、情勢を鑑みつつ発表の場を設けている。</p>
	継続	診療情報管理専攻科	<p>■発表形式の授業を通じてプレゼンテーション力を高め、就職活動及び就職後に役立てる。</p>	<p>■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。</p> <p>■「キャリアデザイン」の就職指導において、履歴書作成や面接練習の機会を通じて、自身の考えを文章や言葉にして表現する指導を行っている。</p>	<p>■一部の教科では発表形式を取り入れた授業が行われている。自身の考えをまとめ、他者に理解してもらえようように表現するスキルを身につけるため、様々な機会を用意し指導を行っている。</p>
	継続	医療事務IT科	<p>■授業だけではなく学校生活における様々な場面で、自分の考えを他者に理解してもらえよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。</p>	<p>■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。</p>	<p>■一部の教科では発表形式を取り入れた授業が行われている。自身の考えをまとめ、他者に理解してもらえようように表現するスキルを身につけるため、様々な機会を用意し指導を行っている。</p>
	継続	診療情報管理科	<p>■授業だけではなく学校生活における様々な場面で、自分の考えを他者に理解してもらえよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。</p>	<p>■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。</p>	<p>■一部の教科では発表形式を取り入れた授業が行われている。自身の考えをまとめ、他者に理解してもらえようように表現するスキルを身につけるため、様々な機会を用意し指導を行っている。</p>
	継続	くすり・調剤事務科	<p>■授業内において個人やグループで発表をする機会を設けており、クラスメイトや教員からフィードバックを得ることでより内省や気づきの機会となっている。本年度も継続して実施する。</p>	<p>■1・2年生合同授業などを通じてクラス内だけでなく、他学年間でも発表をおこなった。</p> <p>■薬店実習でもグループディスカッションや発表をおこない、企業の人事担当者からフィードバックをいただいた。</p>	<p>■2年後期の「キャリアデザインⅣ」、「OTC薬の基本」と「対応技術」等の授業において、身につけた知識や技術を活用しておこなうデモンストレーションやプレゼンテーションを実施し、より実践的な知識の習得を図る。</p>
	継続	介護福祉科	<p>■「調べ学習」「考察学習」「創作活動」等を学習活動の中心に据え、それらの成果を伝えるように発表(表現)することを日常的に繰り返す。</p>	<p>■講義科目、演習科目にかかわらず、「調べ学習」「考察学習」「創作活動」等を導入しているが、ファシリテーションの質により、学習効果にバラツキが出てしまう。</p>	<p>■講義科目、演習科目にかかわらず、「調べ学習」「考察学習」「創作活動」等の導入を継続した(専任教員結果、フィールドワークの際、活動中の地元老人クラブの皆さんと公園で遭遇でき、元気高齢者の日常生活の実態をヒアリング調査ができたことは、この学習活動の成果であると言える。</p>
	継続	看護科	<p>■少人数での意見交換は実習における日々のカンファレンスを通し各自の意見発表の場を設け取り組んでいく。</p> <p>■クラス全体での討議は合同カンファレンスの機会を設けてテーマに沿った討議の場を設け取り組んでいく。</p>	<p>■自分の関心事に関しては自己の意見を述べる傾向にある。他者の意見に対し自己の意見を述べられるように継続して取り組んでいく。</p> <p>■3年次の7月の合同カンファレンスは、新型コロナウイルス感染症の影響で延期したが、9月に実施することができた。しかし、欠席者が多く学生の参加意欲に課題が残りに、全体討議も深まらず課題が残った。原因は意欲だけではなく全体討議の目的・他者の意見を聴き討議する意味などの理解の不足があると考えている。後期に向けて目的の理解を促すような説明の上で運営に取り組んでいく。</p>	<p>■カンファレンスなどにおける意見交換においては、個々の学生の発言により思考の広がりがある事を学生自身が効果を感じており、今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>■後期においては、学生の成長もあり参加状況は改善した。しかし、特定の学生においては欠席が目立った。カンファレンスに限らず、有効性について理解を促すように努めている。</p>
○高校の現場ではアクティブラーニングが進んでいる。2020年度からそれに慣れた生徒が卒業する。引き続きアクティブラーニングに注力していただきたい。	継続	医療秘書科	<p>■対面授業、オンライン授業の双方の授業形態において、学生の主体的な学びの要素を取り入れるよう工夫していく。</p>	<p>■現状としてソーシャルディスタンスを保つ必要があるが、学生同士の協同学習には代えがたいメリットがあるため、感染防止に留意しながら徐々にグループワークを再開している。</p> <p>■教科によっては、引き続きZoomのブレイクアウトルーム機能等を用いてグループワークを実践する等、オンライン授業の特性を生かし、参加型授業を促進している。</p>	<p>■2022年度は、ソーシャルディスタンスの必要性から、学生同士の協同学習にはやや制限が残ったが、徐々に日常を取り戻しつつある。対面授業とオンライン授業をそれぞれ有効利用し、より学習効果を高める方策の研究を続けていく。</p>
	新規	医療事務科	<p>■対面授業、オンライン授業の双方の授業形態において、学生の主体的な学びの要素を取り入れるよう工夫していく。</p>	<p>■現状としてソーシャルディスタンスを保つ必要があるが、学生同士の協同学習には代えがたいメリットがあるため、感染防止に留意しながら徐々にグループワークを再開している。</p> <p>■教科によっては、引き続きZoomのブレイクアウトルーム機能等を用いてグループワークを実践する等、オンライン授業の特性を生かし、参加型授業を促進している。</p>	<p>■2022年度は、ソーシャルディスタンスの必要性から、学生同士の協同学習にはやや制限が残ったが、徐々に日常を取り戻しつつある。対面授業とオンライン授業をそれぞれ有効利用し、より学習効果を高める方策の研究を続けていく。</p>
	継続	診療情報管理専攻科	<p>■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。</p>	<p>■一部の教科においては、積極的にアクティブラーニング型授業への変換を行っている。ただ聴くだけの授業からの脱皮を図り、ICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を徐々に取り入れている。</p>	<p>■適応できる教科からアクティブラーニング型授業への転換を行っている。特にアプリを使用した授業では自主的に学ぶ方法が成果を上げているため、アプリを活用する教科を増やす方向で検討している。また、オンライン授業においては、様々なツールを用いて双方向のコミュニケーションを意識したアクティブラーニング型授業を実施している。</p>
	新規	医療事務IT科	<p>■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。</p>	<p>■一部の教科においては、積極的にアクティブラーニング型授業への変換を行っている。ただ聴くだけの授業からの脱皮を図り、ICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を徐々に取り入れている。</p>	<p>■適応できる教科からアクティブラーニング型授業への転換を行っている。特にアプリを使用した授業では自主的に学ぶ方法が成果を上げているため、アプリを活用する教科を増やす方向で検討している。また、オンライン授業においては、様々なツールを用いて双方向のコミュニケーションを意識したアクティブラーニング型授業を実施している。</p>
	新規	診療情報管理科	<p>■一方的に講義を行う従来型の授業形式にとらわれず、対話ができるアクティブラーニング型授業への変換を推進する。オンライン授業および対面授業において、学生の主体的な学びを進められるよう可能な科目から取り入れる。</p>	<p>■一部の教科においては、積極的にアクティブラーニング型授業への変換を行っている。ただ聴くだけの授業からの脱皮を図り、ICT機器を活用してのアクティブラーニング型授業を徐々に取り入れている。</p>	<p>■適応できる教科からアクティブラーニング型授業への転換を行っている。特にアプリを使用した授業では自主的に学ぶ方法が成果を上げているため、アプリを活用する教科を増やす方向で検討している。また、オンライン授業においては、様々なツールを用いて双方向のコミュニケーションを意識したアクティブラーニング型授業を実施している。</p>
	継続	くすり・調剤事務科	<p>■各授業ごとに調べ学習や作問の実施、ビデオ教材の使用、グループワーク、ペアワークなど座学だけでなく主体的に学ぶことや周囲と協働しながら学ぶことができる授業を実施している。</p> <p>■教員の研修への参加や学内での情報共有を行い、さらに学生が主体的に学ぶことができる環境を整える。</p>	<p>■授業担当教員から授業内容や学生の参加状況などの聞き取りを随時おこない、実施状況を確認している。</p> <p>■各自研修に参加し、情報共有をおこなっている。</p>	<p>■授業担当教員から授業内容や学生の参加状況などの聞き取りを随時おこない、実施状況を確認した。</p> <p>■各自研修に参加し、教員間での情報共有をおこない、授業に反映させることで、学生の主体的な学びに繋がった。</p>
	継続	介護福祉科	<p>■学生の学習活動を中心に据えた授業設計を、兼任講師も含めて周知し、授業公開を活用してアクティブラーニングの質を高めていく。</p>	<p>■兼任教員も含めてアクティブラーニングがどの程度浸透しているかという、具体的には把握しきれていない。一部の兼任教員とは、授業設計をシェアできているが、全教員にはまだまだ届いていないと評価している。</p>	<p>■後期授業についても、前期同様一部の兼任教員と専任教員の間でしかアクティブラーニングの導入状況を確認することができなかった。またアクティブラーニングにも多様なアプローチや教材活用方法があるので、研鑽を重ねる必要がある。次年度初頭に実施する学科会議において、取り組みやすい事例を提示したい。</p>
	継続	看護科	<p>■授業において講義中心でなく、演習など学生に思考させる授業展開を取り入れ取り組んでいく。</p>	<p>■講義の中で学生の考えを共有する場を設ける工夫をし、授業展開に取り組んでいる。またシミュレーターなどを活用し、参加・体験による学ぶ機会を設けている。講義の中で対話をする機会は重要とらえ、出来る限り学生の考えを共有する場を設け取り組んでいく。</p>	<p>■全部ではないが、アクティブな授業が増え学生も動きがあることと楽しく取り組んでいる。今後はこの方法による知識・学びとしての有効性について検証していくことが課題である。</p>
○新型コロナウイルス感染症への対応については、変化に革新的に、スピード感をもって対応できている。今後は質の部分も上げて、より充実した教育になるようにしていきたい。○オンライン授業は教員側の作り方、機能の使い方によって、学生の参加意識が変わってくるため、引き続き工夫することが望まれる。○オンライン授業を継続していくにあたり、教員からの一方的な教授にならないように工夫していただきたい。	新規 継続	医療秘書科	<p>■オンライン授業は学生の学習意欲向上を導くあらゆる授業スタイルとして定着化が進んでいる。教員は引き続き個人のスキルアップを図り、情報を共有しあうことで質の向上に努める。</p> <p>■オンライン授業においても学生と教員のコミュニケーションを重視し、学生の主体性を育てる工夫をしていく。</p>	<p>■オンラインを併用したハイブリッド型の教育は、校内のインフラ整備、配信室の設置など専用設備が拡充され日常化している。教員や兼任講師の経験とノウハウも蓄積されつつある。授業公開の制度等を十分活用し、さらにブラッシュアップを図っていく。</p> <p>■新型コロナウイルス感染者を含む欠席者対応として、また反復学習が必要な学生対応として、必要に応じて授業を録画し、オンデマンド配信する形態を積極的に取り入れている。</p>	<p>■教員は3年に亘る新型コロナウイルス感染症禍で習得したオンライン型授業の教授方法を授業公開等で共有し、スキルは着実に蓄積されている。引き続きアップデートを巡り、対面授業・オンライン授業いずれにおいても学生の知識とコミュニケーション力を育む教育活動を研究していきたい。</p>
	新規	医療事務科	<p>■オンライン授業は学生の学習意欲向上を導くあらゆる授業スタイルとして定着化が進んでいる。教員は引き続き個人のスキルアップを図り、情報を共有しあうことで質の向上に努める。</p> <p>■オンライン授業においても学生と教員のコミュニケーションを重視し、学生の主体性を育てる工夫をしていく。</p>	<p>■オンラインを併用したハイブリッド型の教育は、校内のインフラ整備、配信室の設置など専用設備が拡充され日常化している。教員や兼任講師の経験とノウハウも蓄積されつつある。授業公開の制度等を十分活用し、さらにブラッシュアップを図っていく。</p> <p>■新型コロナウイルス感染者を含む欠席者対応として、また反復学習が必要な学生対応として、必要に応じて授業を録画し、オンデマンド配信する形態を積極的に取り入れている。</p>	<p>■教員は3年に亘る新型コロナウイルス感染症禍で習得したオンライン型授業の教授方法を授業公開等で共有し、スキルは着実に蓄積されている。引き続きアップデートを巡り、対面授業・オンライン授業いずれにおいても学生の知識とコミュニケーション力を育む教育活動を研究していきたい。</p>
	新規 継続	診療情報管理専攻科	<p>■各教員が、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。その手法を共有し、向上していける態勢を構築する。</p>	<p>■各教員はオンライン授業において常に学生の理解度が先進する。よりわかりやすい授業を目指して、教材作成および準備を行っている。学科内はもちろんのこと、関連科目の教員同士で連携して情報交換しながらスキルアップを図っている。</p>	<p>■他教員のオンライン授業の手法を知ることで自身の授業に新しい要素を取り入れることができ、また、学生の目線に授業に参加することで自身の授業を見直すことができる。教員が相互に教え合い、ともにスキルアップしていける環境が構築されてきている。</p>
	新規 継続	医療事務IT科	<p>■各教員が、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。その手法を共有し、向上していける態勢を構築する。</p>	<p>■現在のところオンライン授業は実施していない。</p>	<p>■現在のところオンライン授業は実施していない。</p>
	新規 継続	診療情報管理科	<p>■各教員が、より質の高いオンライン授業を実施できるよう創意工夫を続ける。その手法を共有し、向上していける態勢を構築する。</p>	<p>■各教員はオンライン授業において常に学生の理解度が先進する。よりわかりやすい授業を目指して、教材作成および準備を行っている。学科内はもちろんのこと、関連科目の教員同士で連携して情報交換しながらスキルアップを図っている。</p>	<p>■他教員のオンライン授業の手法を知ることで自身の授業に新しい要素を取り入れることができ、また、学生の目線に授業に参加することで自身の授業を見直すことができる。教員が相互に教え合い、ともにスキルアップしていける環境が構築されてきている。</p>

	新規 継続	くすり・ 調剤事務科	■リアクションシートや授業アンケートの結果などをもとに学生の理解度や学習意欲を確認し、実施方法を検討する。 ■授業公開や研修へ積極的に参加し、最新情報の取得に努める。	■授業担当教員から授業内容や学生の参加状況などの聞き取りを随時おこない、授業実施方法の相談をしている。 ■各自研修に参加し、情報共有をおこなっている。	■アンケートの結果を使用し、授業担当教員と共に授業実施方法の見直しをしている。 ■各自研修に参加し、情報共有をおこなった。
	新規 継続	介護福祉科	■新型コロナウイルス感染症対応については、過不足のない適切な対応を心掛け、学習活動に活かして(取り込んで)いくことで、現場での実践に備える。 ■オンライン授業については、教材作成やICTツールのオペレーションなどのスキルとコンピテンシーを高めることで適応を図る。	■今期はまだオンライン授業を行っていない。 ■教材等については、いっオンラインに切り替わっても対応できるように、オンライン・対面併用の教材を作成し授業を行っている。	■対面授業に支障が出なかったため、オンライン授業は実施しなかった。 ■オンラインに対応できる教材作りは、対面授業においても有効に活用できた。留学生も含めた個々の学生にとってわかりやすく学習課題に取り組みやすいデザインを心がけていることが要因であると考えられる。この取り組みは継続していきたい。
	新規 継続	看護科	■授業以外に実習においてもオンラインによる現場の専門職との意見交換など、遠隔でも学べるような学習方法を工夫しながら取り組んでいく。 ■オンラインでの授業後は授業アンケートや対面授業の際に習熟度などを確認する場を設けて取り組んでいく。	■オンライン授業の機会はほとんどなく、対面授業で学習している。一部の臨地実習においては、オンラインで臨地の指導者と学生が対話による指導に取り組んだ。オンラインでは対話が成り立つように質問を準備するなど質問力を高めるような工夫をして取り組みを行う。 ■授業後にリフレクションなどを実施し、学生の理解度や反応を確認して取り組んでいる。	■前同期様の状況が進めたが、学生と教員・指導者とのオンラインは活用の場はほぼ無い状況で取り組んでいる。 ■上述同様に進めたいと考えているが活用の場は無かった。
	新規 継続	教務委員会	■共通で受けさせる検定の問題など、GoogleFormsなどのアンケートツールなどを使用し、学生がいつでもオンラインで問題を解き、解説を読める環境づくりを目指す。	■各学科において、Googleドライブでの問題共有や、単語帳などのアプリの導入を行っている。また、Google Formsで課題の提出やアンケート、フィードバックを行っている。	■SOKKIのポータルサイトに掲載される連絡事項やGメールで送られてくる授業変更やその他の連絡事項、課題、時間割、席順、病院実習の提出など全てをGoogleClassroomで管理した。自分のClassroomを開覧するだけですべての情報を得ることができるため、学生の確認漏れを防止することができた。次年度は今年度GoogleClassroomや一括管理アプリを使用していない学科への導入を促していく。
○新型コロナウイルス感染症が学校運営に大きな影響を及ぼす中で、フレキシブルに対応した。そこで得たノウハウを、学生、教職員にとって有益な形で生かしていただきたい。	継続	校長	■オンライン授業を円滑に実施するための校内インフラを引き続き整備・拡充するとともに、対面と併用したハイブリッド型授業の効果的な運営のノウハウを、授業公開の機会なども活用し、共有していきたい。	■オンラインを併用したハイブリッド型の教育は、オンライン授業の専用設備も拡充され、経験とノウハウが蓄積されつつある。今後は、科目の特性に応じて、ハイフレックス型の授業運営等も新たな検討課題に加えたい。	■オンラインを併用したハイブリッド型の教育は、経験とノウハウが着実に蓄積され、科目ごとの特性に応じた工夫も試みられている。アフターコロナに向けて、アクティブラーニングの視点からの授業での活用法も、さらに工夫したい。
	継続	医療秘書科	※前と同じ		
	新規	医療事務科	※前と同じ		
	継続	診療情報管理専攻科	※前と同じ		■前と同じ
	継続	医療事務IT科	※前と同じ		■前と同じ
	継続	診療情報管理科	※前と同じ		■前と同じ
	継続	くすり・ 調剤事務科	■再度感染が拡大した場合に備え、全授業をオンラインで対応できるように兼任講師と連携を取りながら継続して体制を整えておく。	■授業内容に応じて一部授業をオンラインにて実施している。引き続き臨地実習に対応できるように、兼任講師と連携を取りながら体制を整えておく。	■授業内容に応じて一部授業をオンラインにて実施した。引き続き臨地実習に対応できるように、兼任講師と連携を取りながら体制を整えておく。
	継続	介護福祉科	■感染症対策として、予防は勿論、罹患したときの対処方法などを、自ら考え判断できるよう、ノウハウの周知に努める。	■対処方法についてはいくつかの考え方があり、学務課と連携してその都度対応方法を確認している。また最新の情報を得るために、専門家を招いての研修に参加し、知識と対処方法の更新を進めている。	■研修に参加し、実習先施設や事業者の担当者との連携に努め、実習先に応じて産学で感染対策の基本指針を共有し対処したことで、学生の感染者は出さずに臨地実習を終えることができた。学内の感染対策は、学務課と連携し継続して行った。
	継続	看護科	※前と同じ		
	継続	総務課	■昨年度、全教室のFree Wi-Fi、有線接続口を配備した。これらに不具合が発生しないように注視していく。	■現在のところ、昨年度に配備した全教室のFree Wi-Fi、有線接続口の問題は生じていない。引き続き注視していく。	■全教室のFree Wi-Fi、有線接続口の問題は生じなかった。
	継続	学務課	■授業を止めないために、また、クラスターが発生しないように、昨年同様、マスク着用、手洗い、アルコール消毒等、感染拡大防止対策の周知と徹底を図る。	■学科、担任と連携して、体調不良を訴える学生やPCR検査を受ける学生等にGメールを中心として細やかに連絡をとった。そのため、クラスターは発生せず、前期の授業も予定どおり終了した。後期もマスク着用、手洗い、アルコール消毒等、感染拡大防止対策の周知と徹底を図り、クラスターの発生や休校が生じないように取り組んでいく。	■マスク着用、手洗い、アルコール消毒等、感染拡大防止対策の周知と徹底について、年間を通して学科・担任と連携した。その結果、クラスターの発生および休校は生じなかった。
	継続	CSC	■2021年度は、キャリアサポートプログラムの内容にオンライン指導できる動画を取り入れたり、内定者や卒業生の報告会または関係者講演等を収録しオンライン配信してきた。今後この取り組みを進めていく。	■キャリアサポートプログラムの内容のオンライン化を一層進めている。そのオンラインの内容もより学生にとって分かり易い内容とするよう取り組んでいる。	■キャリアサポートプログラムの内容のオンライン化を一層進めている。そのオンラインの内容もより学生にとって分かり易い内容とするよう取り組んでいる。また感染症が落ち着くのに伴い、行事等を従来の対面型に戻すことも行ってきた。
	継続	広報室	■来校型オープンキャンパスでは換気、ソーシャルディスタンス、机・備品の除菌、消毒液の設置、体温測定、マスクの着用、人数制限を設けるなど、安心・安全な開催を周知するとともに、並行して複数のオンライン型を実施し、参加者を分散させ感染リスクを抑えつつ、遠方の受験生などにも対応してきた。引き続きこれに取り組んでいく。	■来校型オープンキャンパスでは様々な感染防止対策を行い、安心・安全な開催を周知している。並行して行っているオンライン型では、参加者の分散による感染リスクを抑えつつ、遠方の受験生などにも対応している。	■来校型オープンキャンパスでは、徹底した感染対策を行い、安心・安全に参加できる環境を整えて実施した。同時に、参加者の分散による感染リスクを抑え、遠方の受験生などにも対応できるオンライン型を開催した。
	継続	教務委員会	※前と同じ		
	継続	学生委員会	■新型コロナウイルスに対する外部の情報や見解も意識しながら、本校としての感染(拡大)防止対策を検討して実施していく。	■教室内のアルコール消毒液やペーパータオルが無くなり必要時に使用できないことがないようにするために、補充・交換を学生にも協力してもらい、全校一丸となって感染(拡大)防止対策に取り組んでいる。	■教室内のアルコール消毒液やペーパータオルが無くなり必要時に使用できないことがないようにするために、補充・交換を学生にも協力してもらい、年間を通して全校一丸となって感染(拡大)防止対策に取り組んだ。
○新型コロナウイルス感染症禍の中でも入り口から出口までクオリティを落とさず学校運営をしていること、また、以前より実績を上げていることを高く評価する。引き続き創意工夫することを期待したい。(2021年度総評) ○自己点検・自己評価の各評価項目、活動内容を振り返り、新型コロナウイルス感染症の影響をあまり感じさせないどころか、今まで以上の活動ができています。教育活動が十分に結果に結びついているため、引き続きの取り組みに期待したい。(2021年度総評) ○変化に対応しながら、新しい形をつくっている点を評価する。変化に対応しながら学んだ人材は貴重であるため、引き続き努力してほしい。(2021年度総評)	新規	校長	■職業人教育の在り方について、ウィズコロナ、アフターコロナといった今後の環境の変化に対応できるよう、検討を続け、さらに工夫したい。	■学生の学びやすさと科目の特性を考慮して、可能と思われる範囲で新たにハイフレックス型の授業運営も試行したい。	■学生目線での学びやすさに配慮し、一部の科目において、まずは可能と思われる範囲で、ハイフレックス型の授業運営も試行したい。
	新規	医療秘書科	■対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験を将来に生かせるよう、学生のサポートに努める。	■学生の学びやすさと科目の特性を考慮した次のステップとして、可能な範囲で新たにハイフレックス型授業への取り組みを検討していく。	■学生の学びやすさと科目の特性、多様化する学生のニーズ等を総合的に考慮し、オンデマンド教材や提示教材の共有化への取り組みを進めている。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごし、日常的に感染対策を行うことが習慣化された。今後の社会人生活においても、引き続き健康管理、自己管理の徹底が図れるよう指導を行っている。
	新規	医療事務科	■対面授業とオンライン授業のそれぞれの良さを生かしたハイブリッド型の授業により、多様化する学生に適應できる授業スタイルを引き続き研究する。 ■新型コロナウイルス感染症禍に学生時代を過ごした経験を将来に生かせるよう、学生のサポートに努める。	■学生の学びやすさと科目の特性を考慮した次のステップとして、可能な範囲で新たにハイフレックス型授業への取り組みを検討していく。	■学生の学びやすさと科目の特性、多様化する学生のニーズ等を総合的に考慮し、オンデマンド教材や提示教材の共有化への取り組みを進めている。 ■新型コロナウイルス感染症に学生時代を過ごし、日常的に感染対策を行うことが習慣化された。今後の社会人生活においても、引き続き健康管理、自己管理の徹底が図れるよう指導を行っている。
	新規	診療情報管理専攻科	■新型コロナウイルスの影響を考えながら、学生の学校生活のクオリティを落とさない授業形態、クラス運営、学校行事を常に検討し、実施する。 ■新型コロナウイルス感染症禍で学んだ健康管理や感染症対策を引き続き実践しつつ学生のサポートに努める。	■新型コロナウイルス感染症の感染状況と考えながら、イベントの時期や学校行事やクラスイベントの時期を検討している。 ■自己の健康管理を徹底させ、特に病院実習に臨む際は細心の注意を払うように指導した。実習2週間前からは行動記録も含めて健康管理状況を確認している。自己の健康管理の徹底は、社会人としての大切なスキルであることを意識させるよう指導を行っている。	■新型コロナウイルス感染症の感染状況と考えながら、イベントの時期や学校行事の時期を決定、安全に実施できた。 ■自己の健康管理を徹底させ、特に病院実習に臨む際は細心の注意を払うように指導した。今後の実習や社会人生活に向けて、自己の健康管理の徹底が、社会人としての大切なスキルであることを意識させるよう指導を行っている。
	新規	医療事務IT科	■新型コロナウイルスの影響を考えながら、学生の学校生活のクオリティを落とさない授業形態、クラス運営、学校行事を常に検討し、実施する。 ■新型コロナウイルス感染症禍で学んだ健康管理や感染症対策を引き続き実践しつつ学生のサポートに努める。	■新型コロナウイルス感染症の感染状況と考えながら、イベントの時期や学校行事やクラスイベントの時期を検討している。 ■自己の健康管理を徹底させ、特に病院実習に臨む際は細心の注意を払うように指導した。実習2週間前からは行動記録も含めて健康管理状況を確認している。自己の健康管理の徹底は、社会人としての大切なスキルであることを意識させるよう指導を行っている。	■新型コロナウイルス感染症の感染状況と考えながら、イベントの時期や学校行事の時期を決定、安全に実施できた。 ■自己の健康管理を徹底させ、特に病院実習に臨む際は細心の注意を払うように指導した。今後の実習や社会人生活に向けて、自己の健康管理の徹底が、社会人としての大切なスキルであることを意識させるよう指導を行っている。
	新規	診療情報管理科	■新型コロナウイルスの影響を考えながら、学生の学校生活のクオリティを落とさない授業形態、クラス運営、学校行事を常に検討し、実施する。 ■新型コロナウイルス感染症禍で学んだ健康管理や感染症対策を引き続き実践しつつ学生のサポートに努める。	■新型コロナウイルス感染症の感染状況と考えながら、イベントの時期や学校行事やクラスイベントの時期を検討している。 ■自己の健康管理を徹底させ、特に病院実習に臨む際は細心の注意を払うように指導した。実習2週間前からは行動記録も含めて健康管理状況を確認している。自己の健康管理の徹底は、社会人としての大切なスキルであることを意識させるよう指導を行っている。	■新型コロナウイルス感染症の感染状況と考えながら、イベントの時期や学校行事の時期を決定、安全に実施できた。 ■自己の健康管理を徹底させ、特に病院実習に臨む際は細心の注意を払うように指導した。今後の実習や社会人生活に向けて、自己の健康管理の徹底が、社会人としての大切なスキルであることを意識させるよう指導を行っている。
	新規	くすり・ 調剤事務科	■前年度は学生が積極的に検定問題などに取り組んでおり、検定の合格率高かった。今年度も自主的に取り組むことができるようにクラウドを通じて問題の共有を行い自主的に学習できる環境を整備する。 ■世間一般にオンライン環境が整備されたことにより、前年度は展示会への参加や化粧品工場の見学、企業説明会をオンラインにて実施することができた。本年度も感染状況などを考慮しながらハイブリッドで実施する。	■本年度も継続して検定試験合格率高い状態で保つことができている。 ■オンライン授業を経験したことにより学生のITリテラシーが高まっており、学生自身がクラウドを通じた資料の共有やアンケートの作成をおこない活用している。	■継続して検定試験合格率高い状態で保つことができている。 ■本年度は学園祭やクラスイベントとしてスポーツ大会を開催できた。引き続き感染状況に合わせ授業やイベントの実施方法の検討をしていく。
	新規	介護福祉科	■新型コロナウイルス感染症に関する課題は、新たな局面に入ったと認識している。学生の学校生活を「コロナ後」にシフトしていくためにも、学生主体の学校生活づくりを支援する。	■学生主体の学校生活活動の1つである「学園祭」の実施に向けて準備が進められている。弊学科は(年齢・国籍・キャリア等)多様な学生が在籍しているため、学生たちが一体となって取り組めるよう担当委員の選出時にはその多様性に配慮した。一人も取り残さない学園祭を目指している。	■学園祭は滞りなく実施された。学科としての目標は達成できた。特に2年生は全員が助け合い協力してできた。また、常勤教員が兼任講師の授業を参観した件数は4件であった。次年度は兼任講師も含め積極的な参加を促し、授業の質向上を目指していく。
	新規	看護科	■感染対策や健康管理は看護師の職業意識を向上させることにつながり、新型コロナウイルス感染症禍で取り組んだ工夫は継続して取り組んでいく。	■自己の健康管理のために毎日提出させていた健康チェックシートは中止し、自己管理に変更した。ただし、実習2週間前からは行動記録も含めて健康管理状況を確認し、不十分な場合は指導を継続している。自己の健康管理を職業人としての責任の一環であると意識づけ、指導を行っている。	■感染症の5類変更により学校生活も変化しそれに伴って見直しをしなければならない。一方、病院等の施設実習には健康管理は必要であると考えそれぞれの施設に応じて対応を考えて行くが、医療を目指す者としての健康管理を意識できるように取り組んでいく。
(4) 授業評価を実施しているか	継続	点検委員会	■2023年度の定期改定に向け、意見を聴取する。2022年度の自己評価委員会、授業アンケート質問項目の見直しをする。	■2023年度の定期改定に向け、自己評価委員会で、授業アンケート質問項目の見直しについて意見を聴取した。	■2023年度の定期改定に向け、自己点検・自己評価委員会で授業アンケート質問項目の見直しを行った。
5. 教員・教員組織(2) 教員の資質向上への取組	継続	教務委員会	■兼任講師の公開方法を次のように変更する。従来は授業公開の許可が下りた兼任講師のみ、参観を許可していた。これを、原則兼任教員はすべての授業を公開することとし、公開することができない授業がある場合に申し出ていただく方法とする。	■前期科目の授業公開は問題なく終了した。後期科目と通年科目は現在実施中である。前期科目は、兼任講師が常勤教員・専任教員の授業を参観することが数回あったが、常勤教員・専任教員が兼任講師の授業を参観することはなかった。後期科目についても積極的な参加を促していく。	■後期科目の授業公開は問題なく終了した。兼任講師が常勤教員の授業を参観することが数回あった。また、常勤教員が兼任講師の授業を参観した件数は4件であった。次年度は兼任講師も含め積極的な参加を促し、授業の質向上を目指していく。

5. 教員・教員組織 (3) 教員の組織体制の整備	○新型コロナウイルス感染症の中で、オンラインと対面のハイブリッド型で授業を進めていくと思われが、オンラインを使った授業をいかに工夫するかが大事なポイントである。その工夫を授業公開等で共有し、学校全体が一つになっていくことに期待したい。	継続	校長	■オンライン授業のインストラクションスキル向上のため、教員間(兼任講師も含む)でノウハウを共有できる機会を、授業公開等の場を活用し、引き続き提供したい。	■今年度も教員間の授業公開等において、互いにノウハウを共有する機会を提供している。	■オンライン授業のインストラクションスキル向上とノウハウ共有のため、今年度も引き続き一部の学科で動画教材の作成と活用法の検討が行われた。オンライン授業の公開については、次年度も予定したい。	
		継続	教務委員会	■コロナ関連で登校は出来ないが、オンライン授業は受けることができる学生に、対面授業と同時にオンライン授業を行えるか検討する。	■コロナ関連で登校ができない学生に対し、一部科目で対面授業と同時にできないが、授業を録画したものを、Googleドライブで共有し学習に参加できるようにした。次年度は実施科目の拡大を目指す。	■登校ができない学生に対し、一部科目で授業を録画したものをGoogleドライブで共有し学習に参加できるようにした。次年度は実施科目の拡大を目指す。	
		継続	校長	■年度初めの全教員会・学科会議は、本年度もオンラインでの開催を予定している。	■今年度も4月8日に、年度初めの全教員会・学科会議をオンラインで開催した。	■年度初めの全教員会・科会は、オンライン開催で兼任講師の参加者が増えていることもあり、引き続き次年度もオンライン開催を予定している。	
		継続	医療秘書科	■専任教員と兼任講師の連携については、学科会議をはじめ、打ち合わせにおいてもオンラインを積極的に活用している。 ■学生への課題提示やオンデマンド教材の配信等についても、専任教員と兼任講師と連携し、引き続き学生が学びを継続しやすい環境整備に取り組む。	■今年度も年初の学科会議をオンラインで開催し、複数学科兼任の講師の方々にも多数参加していただいた。アフターコロナにも、この形式を継続することにメリットがあると感じられた。 ■兼任講師の方々とは、出講時に打ち合わせや情報交換を行い、コミュニケーションを図っている。また、GメールやGoogleドライブ、Googleクラスルームを活用し情報の共有を図っている。	■専任教員と兼任教員の方々とは、対面及びGメールにより日常的に、コミュニケーションを図り良好な関係を築いている。 ■新型コロナウイルスやインフルエンザの罹患、病院事務実習による授業欠席者(公文)に対しても理解をいただき、柔軟に対応していただいている。勤務形態に依らず、学生が学びやすい環境を整えている。	
		新規	医療事務科	■専任教員と兼任講師の連携については、学科会議をはじめ、打ち合わせにおいてもオンラインを積極的に活用している。 ■学生への課題提示やオンデマンド教材の配信等についても、専任教員と兼任講師と連携し、引き続き学生が学びを継続しやすい環境整備に取り組む。	■今年度も年初の学科会議をオンラインで開催し、複数学科兼任の講師の方々にも多数参加していただいた。アフターコロナにも、この形式を継続することにメリットがあると感じられた。 ■兼任講師の方々とは、出講時に打ち合わせや情報交換を行い、コミュニケーションを図っている。また、GメールやGoogleドライブ、Googleクラスルームを活用し情報の共有を図っている。	■専任教員と兼任教員の方々とは、対面及びGメールにより日常的に、コミュニケーションを図り良好な関係を築いている。 ■新型コロナウイルスやインフルエンザの罹患等による授業欠席者(公文)に対しても理解をいただき、柔軟に対応していただいている。勤務形態に依らず、学生が学びやすい環境を整えている。	
		継続	診療情報管理専攻科	■年度当初の学科会議はオンラインで実施した。従前のとおり毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。	■兼任教員の先生方は日常的に対面やメールでの密なコミュニケーションを意識して行っている。授業の際にできるだけ声がけを行い、意思疎通、情報共有を図っている。	■兼任教員の先生方は日常的に、対面のほかメールや電話、ZOOMでのコミュニケーションが取れている。必要に応じてGoogleクラスルーム、ドライブも活用している。	
		継続	医療事務IT科	■年度当初の学科会議はオンラインで実施した。従前のとおり毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。	■兼任教員の先生方は日常的に対面やメールでの密なコミュニケーションを意識して行っている。授業の際にできるだけ声がけを行い、意思疎通、情報共有を図っている。	■兼任教員の先生方は日常的に、対面のほかメールや電話、ZOOMでのコミュニケーションが取れている。必要に応じてGoogleクラスルーム、ドライブも活用している。	
		継続	診療情報管理科	■年度当初の学科会議はオンラインで実施した。従前のとおり毎回の授業の際にコミュニケーションを密に取り、連携・協力する体制は継続し、加えてGmailでのメールやドライブの共有によりオンラインを活用した情報共有をさらに推進していく。	■兼任教員の先生方は日常的に対面やメールでの密なコミュニケーションを意識して行っている。授業の際にできるだけ声がけを行い、意思疎通、情報共有を図っている。	■兼任教員の先生方は日常的に、対面のほかメールや電話、ZOOMでのコミュニケーションが取れている。必要に応じてGoogleクラスルーム、ドライブも活用している。	
		継続	くすり・調剤事務科	■年度当初の学科会議はオンラインにて実施した。 ■メールでの連絡やクラウドの共有を行っており、オンラインを活用した情報共有の推進と個人情報などの取り扱いにおけるリスク管理を並行して実施していく。	■兼任講師とはGメールやGoogleドライブを活用し、情報の共有を図っている。	■兼任講師とはGメールやGoogleドライブを活用し、情報の共有を図っている。	
		継続	介護福祉科	■ICTの利活用を積極的に進め、より良い連携(協働関係)を築く。	■主にGoogleのアプリを使って資料や教材等のデータを共有し、効率化を図っている。またコミュニケーションツールとして専任教員間でSNSを活用している。	■兼任講師の先生方がとても協力的であり、「メール」と「クラスルーム」、「電話」を活用して、データや情報の管理・共有を行い、協働体制をつくることできた。	
継続	看護科	■講師との情報共有は状況に応じて対面・オンラインまたは両方活用などフレキシブルに取り組んでいく。どの手段においても各講師・担当者との意見交換を重要視して取り組んでいく。	■感染状況に限らず、可能な事はオンライン会議などを取り入れて取り組んでいる。	■兼任講師との情報共有はほぼ対面で実施しており、オンラインの活用には取り組んでいない。対面以外での方法については電話やメールで連絡を取り、連携を図っている。また、外部との会議はオンライン会議も多いが、参加者の時間の有効活用においてはオンライン会議が有効であり今後も活用が必要と考えている。			
4 学修成果	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	■指導にあたってはオンラインも活用し、引き続き各学科で着実に取り組みを進めて、成果に結びつけたい。	■各学科・教科系において、対面での指導に加えてオンラインも有効活用した指導ノウハウの蓄積が順調に進んでいる。	■新型コロナウイルス感染症禍のなか、資格・検定取得の指導においてオンラインを有効活用したノウハウの蓄積が順調に進んでおり、次年度もアフターコロナを視野に、更なる向上を目指したい。
			継続	医療秘書科	■学科運営計画に示した卒業時検定合格者の達成に向け、一部科目については進捗別クラス編成を継続する。 ■2年後期の検定にも挑戦できる科目配置にしているため、検定上位級の受験者数を増やし、伸び残のない指導を継続する。	■6月の検定試験、7月の診療報酬請求事務能力認定試験は例年通り習熟度別クラスを設定し、想定した成績を収めることができた。 ■医師事務作業補助技能認定試験は9月以降の受験に向け、指導を進めている。初の在宅受験となるため、その点を配慮した指導を行っている。 ■6月の医療秘書検定は3級(1年生)合格率71.9%、2級(2年生)51.3%、準1級(2年生)33.3%の成績を収めた。 ■6月の秘書検定は3級1名受験1名合格、準1級(2年生)は筆記53名合格、面接50名受験中46名合格という成績を収めた。	■資格取得状況について、2年生の卒業時検定取得率は、診療報酬請求事務能力認定試験 35%、医療秘書技能検定3級 93%、2級 71%、準1級 17%、医事コンピュータ検定3級 98%、2級 73%、電子カルテ検定 88%の成績を収めた。 ■医師事務作業補助技能認定試験はコース選択者が受験し、取得率 59%であった。 ■秘書検定準1級合格者(2年生)の内1名が、日本秘書クラブ会長賞を受賞、本校も団体賞受賞という成績を収めた。
			新規	医療事務科	■学科運営計画に示した卒業時検定合格者の達成に向け、デュアル実習開始までに検定が取得できるよう、学生の理解度に応じた指導計画を立てる。	■後期は午前授業、午後デュアル実習を行うため、夏休み期間を1週間程度授業に充て時間調整をおこなった。 ■7月の医科医療事務管理士技能認定試験は合格率70%の成績を収めた。	■資格取得状況について、卒業時検定取得率は、医療事務管理士技能認定試験 90%、医事コンピュータ検定3級 90%、調剤事務管理士 60%の成績を収めた。 ■次年度は、受験率の増加を目標としたい。
			継続	診療情報管理専攻科	■診療情報管理士試験合格率を高めるための対策を強化する。また、併せてがん登録実務初級者認定試験、医療情報技術能力検定試験の取得率増加を目指し、必要な対策を実施する。	■診療情報管理士試験専門領域に関しては、一部の授業はオンラインで実施し、その後専用アプリで復習することにより、振り返りと繰り返しの学習法が構築されている。アプリは常時更新され、またがん登録についてもアプリの活用が進み、一層の充実が図られている。 ■頻回の模擬試験を実施し、また模擬試験受験後は個人毎に成績評価シートを配布し、自らの課題を自覚して学習に取り組めるよう自己管理を促している。	■診療情報管理士試験受験準備として、頻回の模擬試験が実施されており、都度担当教員による結果分析、弱点の克服法等きめ細やかな指導が行われている。これらの指導にも双方向オンラインシステムが有効に活用されている。 ■医療情報技術能力検定試験は今年度は12名受験、合格者はいなかった。3分野ある領域の勉強をバランスよくできるようにカリキュラムを整えたので、次年度以降は学習内容の調整を行い合格率を上げてゆきたい。 ■11月に実施されたがん登録実務初級者認定試験は85%という結果だった。
			継続	医療事務IT科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。	■7月の医師事務作業補助技能認定試験は対策を強化したことが実り、設定した目標以上の合格率を達成した。引き続き、すべての試験においてより上位級の取得を推進するよう指導に努める。	■各検定試験、認定試験の取得率は前年度とほぼ同様の優秀な成績を収めることができた。
			継続	診療情報管理科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。	■診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指し、継続的に指導を強化している。引き続き、すべての試験においてより上位級の取得を推進するよう指導に努める。	■各検定試験、認定試験の取得率は前年度とほぼ同様であった。
			継続	くすり・調剤事務科	■多くの学生が学科が目標としている資格試験やさらに上位級に挑戦するように動機づけを行う。 ■学生が自身の成長や苦手な箇所を認識できるように問題演習の点数を継続的に計測し、その結果に基づいたアドバイスをを行う。 ■企業と連携しながら合格に向けたカリキュラムの見直しを行う。	■2年生が5月に受験した調剤事務管理士技能認定試験では100%の合格率となった。 ■登録販売者の単語帳アプリを新たに作成し、検定試験対策を強化した。 ■関連企業と継続的にカリキュラムについて打ち合わせをおこなっている。	■サービステック実務検定団体優秀賞受賞 ■2年次2月まで資格取得に励む学生がいる一方で、調剤事務へ内定した学生の登録販売者試験受験率、合格率が低かった。学生の意欲維持のため、次年度カリキュラムでは合格率に満たない学生は夏季休業中に補講を受けるよう変更をおこなった。また、企業とも協力し資格の必要性についても継続して伝えていきたい。
			継続	介護福祉科	■国家試験100%合格をめざす。その他、任意の資格についても、学生自身が将来を見据えて積極的に挑戦できるように支援する。	■前期は2年生が「上級救命講習」と「レクリエーション介護士2級講習」を受講し、どちらも認定資格を取得している。後期は国試合格に向けての特別講習が用意されている。	■レクリエーション介護士2級、上級救命講習、認知症サポーターは100%の取得。国試は合格率93.3%。そのうち留学生は100%合格。
			継続	看護科	■看護師免許取得に向け、低学年から試験対策に取り組んでいく。 ■模擬試験結果は自己学習の振り返りに活用し、合格を意識した学習が定着出来るような学習指導に取り組んでいく。 ■低学力者は個別に学習支援対策に取り組んでいく。	■学習支援の導入として、入学時・進級時は効果的な勉強方法について上級生が下級生にレクチャーの機会を設けている。具体的な取り組みを示し学生同士で学ぶ機会を設けている。更に全員にアンケートや担任面接などをおこない、学習への取り組みなどの確認を継続している。 ■2年次低学年向けの国家試験模擬試験を受け、自己採点や問題を振り返りながら、問題の解き方などを指導している。 ■3年次は模擬試験結果を参考に低学力支援者を選出し、小グループで国試対策を実施し取り組んでいる。	■低学年からの学習支援を必要とする学生は結果的に再履修や留年となっている。よって低学力者の早期からの支援の必要性は十分認識している。一方、担任業務内での支援を継続することは困難であり課題とする。 ■低学年模試の結果は前年度をやや下回り、学力低下は進んでいる。結果を全国と比較し今後の学習課題を自覚を促す事が重要である。 ■例年同様、低学力者を選出し個別に支援を行った。また、学習アプリを試験的に取り入れ活用し取り組んだ。学生個々取り組み状況がネット上で可視化でき、更に教員が試験問題の選択も容易にできるため業務的にも有効な教材であった。よって今後も活用を検討している。112回国家試験結果においては34名中、31名合格の結果であり振り返りを行い今後の対策に活用していく。
			継続	CSC	■年度末にかけて、実習先や内定先への訪問に際し、医療機関等の評価の確認を行っていく。 ■Gメールを活用したより効率的な調査方法の検討を進める。	■今年度、就職模擬面接が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、実習はかなりの病院で行っており、実習での訪問を通じて聞き取りが出来ている。年度末にかけても就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っている。	■今年度、就職模擬面接が新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、実習はかなりの病院で行っており、実習での訪問を通じて聞き取りが出来ている。年度末にかけても就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っている。
5 学生支援	1. 就職等進路	○学生の多くは、学校求人により就職活動を行っていることから、引き続き学生の希望に基づき求人先の確保・開拓に努めてほしい。 ○キャリアサポートセンター担当職員との対応力は学生の就職指導・活動支援に直接かかわるものであることから、引き続き担当職員のスキルアップを進めてほしい。	継続	CSC	■2021年度、特に医療系において大規模病院(特に大学病院、国立病院)への採用が増えた。2021年度の実績ある病院と連携し、2022年度への採用へ繋げていく。 ■担当職員の資格取得、研修への参加を積極的に進めている。今年度も引き続き、積極的に参加を促していきたい。	■今年度も実績ある病院と連携し、求人および採用をいただくことができており、特に大学病院の正職員採用内定では9月末時点で9名となった。 ■キャリアに関わる研修等に積極的に参加を促して、今後参加を予定している。	■今年度も実績ある病院と連携し、求人および採用をいただくことができており、特に大学病院の正職員採用内定では2月末時点で12名となった。 ■キャリアに関わる研修等に積極的に参加を促して、今後参加を予定している。
			継続	CSC	■ウェブ面接については、授業では注意点や実施にあたってのポイントを、また実際にウェブ面接の体験を通して指導していく他、個別にも希望者に対し実際にウェブの模擬面接を行い指導していく。	■ウェブ面接について、授業においてプログラムを設け、注意点や実施にあたってのポイントを指導した。また希望者に対し、個別でウェブの模擬面接も行った。	■ウェブ面接について、授業においてプログラムを設け、注意点や実施にあたってのポイントを指導した。また希望者に対し、個別でウェブの模擬面接も行った。
			継続	校長	■新型コロナウイルス感染症禍にあっても退学防止については着実に成果が上がっており、本年度も学生委員会を中心とした事例研究を継続したい。	■9月末時点までの退学願の提出は8名であった。アフターコロナを視野に、社会的な活動が徐々に回復してきたこともあり、進路変更のための退学に、やや増加傾向が見られる。	■2月15日時点での退学・除籍者は計16名(2.57%)となり、新型コロナウイルス感染症禍のなかで昨年・昨年と減少し続けた退学学生数が、やや増加傾向に転じつつある。事例研究を継続し、引き続き退学防止に努めたい。
	2. 中途退学への対応	○入試区分や入学動機の違い、入学後の学習や学校生活への適応をはじめ、退学の原因は年によって傾向が異なるが、記録の整理、分析をしっかりと行い、情報共有の仕組みを積極的に、効果的に利用して、引き続き防止活動を進めたい。	継続	校長	■新型コロナウイルス感染症禍にあっても退学防止については着実に成果が上がっており、本年度も学生委員会を中心とした事例研究を継続したい。	■9月末時点までの退学願の提出は8名であった。アフターコロナを視野に、社会的な活動が徐々に回復してきたこともあり、進路変更のための退学に、やや増加傾向が見られる。	■2月15日時点での退学・除籍者は計16名(2.57%)となり、新型コロナウイルス感染症禍のなかで昨年・昨年と減少し続けた退学学生数が、やや増加傾向に転じつつある。事例研究を継続し、引き続き退学防止に努めたい。

		<p>ては、今後の対応について検討し、対応策を講ずることに努めてほしい。</p>	継続	学生委員会	<p>■AO入試での入学者に限らず、全学生を対象として分析を行い、退学者防止に努めていく。</p>	<p>■現在は調査段階である。今後は分析を行ったり、他校の取り組みを参考にしたりしながら、退学者防止に努めていく。</p>	<p>■埼玉女子短期大学の取り組みを参考に退学防止に取り組んだ。取り組み例：「趣味のサークル活動をやるう」のような声掛け、カウンセラーによるZoom面談、奨学金担当者による親身な対応。</p>
6. 卒業生・社会人		<p>○卒業後の相談とフォロー体制の充実、学校選択の重要な観点でもあることから、引き続き前向きな取り組みに期待したい。 ○Gメール等を活用した、(卒業生の状況が把握できるような)ネットワーク作りを進めてほしい。また、ネットワーク作りだけでなく、卒業生に対するフォローの強化も進めてほしい。</p>	継続	CSC	<p>■既卒者の就(転)職希望者にも積極的に対応している。2022年度は、より積極的に既卒者へのアプローチを行っていきたい。 ■2021年度、Gメールを通じての転職相談等も受付けており、実際にあっせんも行ってきた。2022年度は、より効率的にGメールを活用し、転職者への相談やあっせんを行っていききたい。</p>	<p>■既卒者の就(転)職希望者に今年度も積極的に対応している。今年度の既卒の求職登録者数は9月末現在で7名である。 ■今年度もGメールを通じての転職相談・就職先あっせん等も9月末現在で数件あった。</p>	<p>■既卒者の就(転)職希望者に今年度も積極的に対応している。今年度の既卒の求職登録者数は2月末現在で11名である。 ■今年度もGメールを通じての転職相談・就職先あっせん等も2月末現在で数件あった。</p>
		<p>○卒業生支援講座については、卒業生のニーズを把握し、内容の充実・強化に努めてほしい。</p>	継続	校長	<p>■卒業生支援講座については、卒業生の学びのニーズを把握して社会人(既卒者)対象の学び直し教育につなげるためのプレ講座と位置づけ、引き続き、講座企画の具体化と受講者へのサービス向上を図りたい。</p>	<p>■今年度は2月に2つの卒業生支援講座の開講を予定している。卒業生にとって、学び直しの場となるように準備を進めている。</p>	<p>■2月11日と2月19日に対面形式での卒業生支援講座を、予定どおり開講した。</p>
			継続	CSC	<p>■卒業生支援講座の企画についても卒業生と接する機会を通じたニーズの把握に努める。 ■運営の仕方も改善の余地があり、学校全体として見直していききたい。</p>	<p>■卒業生のニーズ把握、改善策の提案には至っていない。</p>	<p>■卒業生支援講座について協力できるところはしていきたい。 ■今年度は十分な取り組みができなかった。次年度に向けて積極的に取り組んでいく。</p>
6 教育環境	(2)学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<p>○感染症に関しては、学校保健安全法に基づき対応しているが、学内感染を予防するためにも、インフルエンザなどについては、引き続き所轄からの流行情報を的確、適切に発信して、周知、徹底を図ることが望まれる。</p>	継続	学務課	<p>■インフルエンザなどの流行情報を把握し、必要であればこれまでの感染防止対策の取り組みを見直す。 ■新型コロナウイルスの感染防止対策と同様に、マスク着用、手洗い、アルコール消毒について、学生・講師・教職員全員に周知して徹底する。 ■流行情報の把握や保健室職員との連携により、学生や教職員に情報提供を行いながら感染防止を図る。</p>	<p>■流行情報は豊島区からのメールでチェックしている。ここまで、新型コロナウイルスの感染防止対策として、マスク着用、手洗い、アルコール消毒等を学生・講師・教職員全員に周知して徹底させているが、これらの予防方法に問題は生じていない。秋よりインフルエンザが流行する可能性があるため、保健室職員とも連携し、新型コロナウイルス感染症への対策と合わせ、予防の周知と徹底を図る。</p>	<p>■各種の情報は豊島区からのメールや東京都のHP等で適宜チェックした。学科・担任のほか、保健室の職員とも適宜連携をとり、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の予防に取り組んだ。その結果、学内感染・クラスターの発生を防ぐことができた。</p>
		<p>○高校における専門学校の理解や認識が必ずしも進んでいない。学科ごとに、仕事内容、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供をもっと工夫してほしい。</p>	継続	広報室	<p>■高校訪問を1都3県の重点校を中心に行い、高校教員へ本校の特徴を理解してもらったうえで信頼関係の構築をはかっていく。また、昨年度の募集活動を検証しつつ、今年度の募集活動計画を作成するなかで、アピールすべき情報を精査し本校の強みである就職の強さと業界とのつながりの厚さを訴求していくよう心掛ける。</p>	<p>■重点校を中心に1都5県で289校をリストアップし、高校訪問を行っている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により訪問を断られる時期もあったが、在校生情報の提供などリレーションを深めた。また、新型コロナウイルス感染症で先の見通せない就職状況の中で、医療・福祉分野の安定感や、大規模病院への就職や正職員就職に強い本校の特色を訴求している。</p>	<p>■中間点検同様、高校訪問時には就職の強さ、洗練された教育力、特待生の入試など本校の特徴説明や、卒業生状況の情報提供を行った。 ■進路選択早期化に対応するため、オープンキャンパスSDMなどは高1・2生にも送付し、進路意識の形成と早めの囲い込みを行った。</p>
		<p>○新型コロナウイルス感染症でも遅れることなく、しっかりと教育ができていないことを、募集においても強みとして生かしていただきたい。 ○昨年度の同時期に比べるとオンライン授業のスキルが向上している。募集活動においても強みになると思われる。上手くアピールに繋げてほしい。(2021年度総評)</p>	新規 継続	広報室	<p>■本校の「新型コロナウイルス感染症の対応方針」や「授業開始に向けたルール」に基づき、安全に対面授業を中心とした授業運営していることをアピールする。 ■オンライン授業によるきめ細かいサポートをアピールする。</p>	<p>■オープンキャンパスや高校訪問などで、感染防止対策を行いながら対面授業を中心に授業運営していることをしっかりと訴えている。 ■充実した学生生活を送るためには多くの人と交流が不可欠であるが、新型コロナウイルス感染症の拡大レベル等により一部授業ではオンラインによるサポートができることを伝えている。</p>	<p>■中間点検同様、オープンキャンパスや高校訪問などで、感染防止対策を行いながら対面授業を中心に授業運営していることを訴求した。 ■中間点検同様、一部授業ではオンライン授業にてサポートできることを伝えた。</p>
<p>○オンラインは物理的な距離がなくなるため、今まで検討してきた社会人を対象とした教育も行いやすくなる可能性がある。募集に繋げることを期待したい。</p>	継続	校長	<p>■新型コロナウイルス感染症禍において、教育活動や募集活動の様々な場面でオンラインが普及してきている。社会人対象の教育も含めて、今後もオンラインの活用を積極的に図っていききたい。</p>	<p>■引き続き、様々な場面でオンラインの有効活用を積極的に図ることになっている。</p>	<p>■これからのアフターコロナの状況下においても、教育活動や募集活動の様々な場面でオンラインの有効活用を積極的に図りたい。</p>		
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	<p>○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。</p>	継続	事務局長	<p>■本校生のSNSにおける不適切な情報掲載に関して外部からの指摘があり、所属学科の教員より注意、指導を行った。 ■新型コロナウイルス感染症に関する個人情報については、学内メールの閲覧者を限定し情報の共有を禁止している。</p>	<p>■各学科の授業運営方針に基づき、本校の高品質な授業をオンラインで受講できることをアピールしている。 ■学生生活ガイドへの記載や、担任からの注意喚起によりトラブル等は発生していない。 ■新型コロナウイルス感染症に関する個人情報の取り扱いについては、引き続き閲覧者を限定し、情報の取り扱いに留意して進めている。</p>	<p>■個人情報保護等に関するトラブルは発生しなかった。次年度も同様の取り組みを進めていく。 ■新型コロナウイルス感染症に関する個人情報保護は十分な対応が図れた。次年度についても同様に推進していく。</p>
		<p>○本校のポータルサイトに学生生活ガイドを掲載し、その中で個人情報の取り扱いについての注意喚起を常に見られるようにしていく。</p>	継続	学生委員会	<p>■本校のポータルサイトの中にボランティア活動の専用ページを作り、随時更新していく。</p>	<p>■4月初めのオリエンテーションの中で、個人情報の取り扱いについて記載されている学生生活ガイドの見方について説明した。</p>	<p>■個人情報の取り扱いについての内容をポータルサイトに掲載し、いつでもどこでも見られる状態にした。</p>
10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	<p>○ボランティア活動は人材育成の視点から有意義なものであるため、さらに仕掛けを工夫して奨励してほしい。また、学校で単位認定されることもしっかり告知して活動を支援してほしい。</p>	継続	学生委員会	<p>■本校のポータルサイトの中にボランティア活動の専用ページを作り、随時更新していく。</p>	<p>■本校のポータルサイトの中にボランティア活動の専用ページを作り、随時更新して学生に案内している。</p>	<p>■新しいボランティアの取組み「使用済みペリサイクルプログラム」にエントリーして実施した。</p>